

長崎市立橘中学校 学校だより HP

「海風Ⅱ」

第 8 号 令和 6 年 9 月 12 日(木)

文責 校長 井上博之



制作:2 年 1 組

○ 2 学期が始まりました

44 日間、例年より少し長めの夏休みが終わり、9/2(月)から 2 学期が始まりました。今年の夏も、予報どおりに昨年を上回る猛暑が続き、毎日熱中症の危険度が高く、心配されました(9 月に入ってもまだ警戒が必要です)。また、全国では、海や川の事故、交通事故等で何人もの小中学生が亡くなっています。さらに 8 月には宮崎で大きな地震があり、月末には強力な台風により大雨や洪水、交通機関の乱れ等、多くの方々が被害を受けました。本校では、夏休み中の大きな事故や怪我、トラブル等の報告は無く、始業式を無事に迎えることができましたが、プールの日よけや体育館横の通路の屋根、運動場の砂防ネット等が被害を受けました。今年の夏は、改めて、命を守ることの大切さ、防災・減災のための取組や準備、備えの大切さを実感しました。



遅くなりましたが、これまでお伝えできていなかった 1 学期末から夏休み中の行事、9 月までの生徒の様子もまとめてお伝えします。

○ 1 学期終業式、県中総体・吹奏楽コンクール出場選手激励式、離任式

7/19(金)1 学期終業式 当初は体育館で実施する予定でしたが、急遽、高温対策と感染症拡大の心配が生じ、パソコン室からリモートで行いました。

開式の後、1 年代表、2 年代表、3 年代表が、1 学期の振り返りと 2 学期からの抱負を述べました。

次に校長より、「自分の命と他人の命を大切にすること、時間を有意義に使うこと、目標をもって生活すること」を話しました。

続いて、文化部長より、学級旗コンクールの入賞発表がありました。



優秀賞は 1-3, 2-4, 3-4。最優秀賞は 1-1, 2-1, 3-1。校長賞は 3-1。インパクト賞は 2-3 でした。各学級で工夫し、ユニークな作品、カラフルな作品、力強い作品等が見られました。

次に生徒指導担当から夏休みの生活に関する注意指導がありました。

最後に離任式を行いました。1 学期で退職、産休に入られる先生方に、生徒代表の言葉と花束を贈り、離任される先生方からお別れの言葉を頂きました。大変お世話になりました。また、7/28 に県吹奏楽コンクール県南予選に出場する吹奏楽部の皆さんの激励式を行いました。今回は会場の都合で演奏はできませんでしたが、7/30 には 4 階音楽室で吹奏楽コンクールで演奏した 2 曲を、生徒や先生方のために心を込めて披露してくれました。



橘中 HP (QR コード)



○ 長崎県・九州中学校総合体育大会

7/21(土)～7/23(月)の3日間、各会場にて、長崎県中学校総合体育大会(球技・武道・陸上)が開催されました。本校からは35人の選手が出場しました。連日の猛暑の中、橘中学校の代表としてまた、長崎市の代表選手として、堂々と試合に臨みました。さらに県大会上位入賞者7名は長崎県代表として、各地での九州大会に出場しました。主な結果は以下のとおりです。

【男子テニス団体】 2回戦勝利(対田平中 3-0) 3回戦準々決勝敗退(対諫早中 0-2)

【剣道女子個人】 1回戦勝利、2回戦敗退

【柔道女子個人】 2位 →8/9 宮崎 九州大会出場:地震のため個人戦中止

【卓球女子個人】 1回戦シード、2回戦勝利、3回戦勝利、4回戦敗退(ベスト8)

【陸上】 女子共通走幅跳: 3位

男子2年4×100mR 2位

男子低学年4×100mR 1位

→8/7 長崎 九州大会出場:4位入賞

【水泳】 女子個人 200m背泳ぎ 3位、100m背泳ぎ 2位 →8/5 福岡 九州大会出場
200m自由形 3位

男子個人 50m自由形 2位 →8/4 福岡 九州大会出場

女子4×100mフリーリレー 3位



※ この他、クラブチームや、市・県の選抜選手、代表選手として、県大会、九州大会、その他の大会に出場し、活躍している選手が多数います。目標に向かって日々の練習と努力を積み重ね、困難に負けずに成果を発揮するためには、忍耐力や強い精神力、体力、技術、チームワークと周囲の理解、協力等が必要です。全ての出場選手、それを支えた仲間やチーム、家族、指導者の方々の努力と健闘を心より賞賛いたします。さらに、この貴重な経験・体験は、今後のみなさんの人生の中で、いつかきっと役に立つ時が必ず来ると思います。みなさん、お疲れさまでした。よくがんばりました。

○ 長崎県吹奏楽コンクール県南予選

7/28(日)にベネックス長崎ブリックホールにて、第69回九州吹奏楽コンクール予選 長崎県吹奏楽コンクール県南地区大会が行われました。橘中学校の出演は13時5分からでした。課題曲はⅡ「風がきらめくとき」、自由曲は「想い麗し浄瑠璃姫の雫」でした。自由曲は、奥州を目指して東へ下る源義経と浄瑠璃姫の悲恋物語から着想を得た曲で、壮大でドラマチックなストーリーを叙情的に表現し、和太鼓や締め太鼓・手振り鉦・笛の役割を担うフルートによって奏でられるお囃子のようなフレーズや津軽三味線の音色のイメージが織り込まれ、和の雰囲気を出している曲だそうです。



※ 引用: [吹奏楽の楽曲・楽譜情報マガジン\[フォスターミュージック\]\(fostermusic.jp\)](http://fostermusic.jp)

私は、演奏を聴きながら、その物語の情景が浮かんでくるように感じました。叙情的、情熱的な部分の変化があり、引き込まれました。さらに、これまで熱心に練習を続け、本番では笑顔で演奏を楽しむ生徒の姿に感銘を受けました。結果は金賞を受賞しましたが県大会出場にはあと一步届かず、残念でした。しかし、聞く人に感動を与える素晴らしい演奏でした。

